# 榮光

７５４号

2024年５・６月

日本基督教団
田園調布教会
伝道部発行



〒145-0071
東京都大田区田園調布
3−34−18
電話　03-3721-2811
FAX　03-3721-2814
https://den-church.jp/


ペンテコステ礼拝

## この霊を知っている

エゼキエル書　三六章二五〜二八節
ヨハネによる福音書　一四章一五〜二六節

牧師　高橋和人

ペンテコステを迎えました。ペンテコステ・五旬節は過ぎ越しの祭りから五〇日目を指します。過ぎ越しの祭りの時に主イエスの十字架の死と復活がもたらされました。その日から五〇日目、ユダヤの暦で七週の祭りといわれる日のことです。

聖霊降臨の出来事は使徒言行録二章に記されています。復活したイエスは弟子たちに「近いうちに聖霊が降る」ことを告げて、天に昇られました。それから一〇日後、弟子たちが集まって祈っていると、激しい風のような音が聞こえ、天から炎のような舌が一人ひとりの上に分かれて降ります。集まって祈っていた信徒たちは聖霊に満たされ、さまざまな国の言葉で語り始めたことが使徒言行録に記されています。

今日は聖霊についてヨハネによる福音書から聞きたいと思います。今日の箇所では、主イエスご自身が聖霊について教えています。ヨハネによる福音書は一三章から、決別説教になります。主イエスは御自分が弟子たちから離れて、父なる神のもとに行かれる時を悟り、弟子たちとの別れの前に重要なことを教えられます。長い説教になっています。

一四章で主イエスは父なる神のもとに行き、主に従ってきた弟子たちに住む所、場所を用意されると告げます。今、弟子にあたるのはわたしたちのことです。

そこには、子なる神と父なる神との関係が語られます。「子は父の内におり、父が子の内におられる」（一四章一〇、一一節）ことを教えます。「内にいる」というのは混じってしまうことではなくて、一つとなっていても、それぞれのお方がおられ、それぞれの存在が失われないことを示しています。

弟子たちにとって、主イエスとの別れは主イエスと共にいた時の人生全体を失うのです。それは、教えられ、覚えたことがあり、それにもまして、主イエスに触れ、主イエスについて来て共に過ごした時、一緒にいた喜びに満ちた貴重な時でした。主イエスがそこにいて、弟子たちはその声を聞き、語り合うそれが彼らの喜びでした。

主イエスは愛する弟子たちと別れるに際して、父なる神から「別の弁護者が遣わされることを願う」と約束されます。この弁護者は「パラクレートス」という言葉で、「一緒に」と「叫ぶ」という言葉からできています。側にいて自分と一緒に、あるいは代わりになって叫んでくれる存在です。それで弁護者と呼ばれます。この弁護者を主イエスは真理の霊といいます。二六節では弁護者は聖霊だと言われます。聖霊を信じるにはこのお方の姿を受けとめる必要があります。

さて、聖霊信仰は分かりにくいと言われます。しかし、わたしたちは聖霊のことを考えて、頭で理解する仕方とは違った仕方で分かることができます。それには、聖書から聖霊の恵みを知らされ、それを受け止めることです。すると、今自分に働いている聖霊の恵みが見えてきます。聖霊の恵みが分かれば、聖霊のことが分かったことになります。聖書は既にわたしたちに与えられている聖霊の恵みを教えます。

この弁護者は「永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる」存在です。これは主イエスが弟子たちと「一緒にいた」ことが